

学校の詩

うた

令和2年6月発行 学校便り

学校の教育目標

自律貢献

文責:校長 藤井浩彦

◆3年生進路説明会より

6月26日の午後から、3年生の進路説明会を行いました。筑紫台高等学校の吉村直樹教頭先生をお招きし、5校時は生徒のみ、6校時は保護者のみの説明会という形でお話をいただきました。以下、生徒向けの話の要約です。

- 現在の中学3年生が生きる将来（10年後～20年後）は、人の仕事の47%がAI（人工知能）にとって代わられると言われている。では、その中でどうすればいいか？
→ 「基礎学力をつけること」「勉強ぐせをつけること」この2つがとても重要である。それは、たとえ一度就いた仕事ができないようになったとしても、その2つの力があれば、また勉強して次の道を目指すことができるから。
- 現高校3年生から大学入試が変わる。（現中学3年生も）
→ 単なる知識だけでは通用しない。「なぜそうなるのか」をきちんと理解し、説明が出来る力、表現し伝えることができる力を身につけておかないと対応できない。したがって、日頃から「なぜ？」を意識した学びが大切である。
- これから、卒業まであるいは入試までの9ヶ月が大切である。
→ 例えば部活動を引退し、だらけた生活を送るのではなく、目標を持って地道に学習に取り組むことや、日常生活をきちんと送ることが、将来のよりよい人生へとつながる。また、「普通科」「総合学科」「専門学科」などのそれぞれの特徴をよく知り、進路選択をしていくことも大切である。
- 入試は、いつ、どうやって決まるのか？
→ ①日常生活の様子：調査書の所見欄に記載されるものを高校の先生達はしっかりと見ている
②オープンスクールなどの高校主催行事のときの中学生の様子：中学生が来校したときにしっかりとチェックする。
③入試当日：「入試の得点」「受験中の様子」「休み時間の様子」「登下校中の様子」などを総合的に見て判断する。
☆結論！毎日、毎時間（今そのときそのとき）が入試だと思おうこと！
- こんな生徒に入学してほしい（高校が望む中学3年生）
→ ①中学校生活がきちんとできる生徒（遅刻や欠席がない、挨拶ができる、授業態度が素晴らしい、提出物がきちんとできる、自分の役割に責任を持つ等）
②高校でやりたいこと（目標）がある生徒
③目標達成には、多少の遠回りがあるとわかっている生徒（何でもストレートにうまくはいかない。失敗しても立ち上がりまた努力する生徒であってほしい）
④早寝早起きの生徒、特に22:00～4:00の睡眠を大切にしている生徒（この6時間の間の睡眠が昼間の活動を大きく左右する）
⑤定期考査・小テストをきちんとこなせる人（期日や範囲が決まったものを計画的に取り組み充実させていく生徒は、将来においても、段取りをし、より質の高い仕事ができる社会人となる）
⑥変えられるものと変えられないものを認識し、前向きな思考ができる生徒（今までの自分では変えられないが、これから将来へ向けての自分では変えられる！という前向きさ）
⑦親孝行の気持ちを持つ生徒（何があろうと、子どものことを考え、たくさんの愛情を注ぎ、いつも精一杯の支援をしてくれる親に感謝できないようでは人としてダメである）
- 意識すること
→ ①15分でいいので、何もせず、ただぼーっとする時間を作る（次への活力に！）
②目標設定は、わかりやすく、明確に！（こうなりたい→ここが足りない→具体的にこれをこのように取り組む等）
③「自分を大切にする」は「自分だけを大切にする」という意味ではない。（今の自分だけではなく、将来の自分や家族をも大切にすることにつながる）



【筑紫台高校 吉村直樹教頭先生】

吉村教頭先生の話から、進路実現をするためにも、また、将来社会人としてよりよく生きていくためにも、一生懸命学ぶことはもちろんのこと、挨拶ができる、時間を守る、提出物がきちんとできる、物事に粘り強く取り組むことなどは、とても大切なことであると再認識させられました。

『挨拶だけで人生が変わる？』

校長コラム

最近、立ち止まって挨拶をしてくれる子どもが増えてきたように思います。それも、一人一人に体を向けて…さらには笑顔で、こちらまでも思わず笑顔になれる素敵な挨拶をしてくれる人がたくさんいます。そんな子ども達を見ながら、自分自身を振り返り、私も相手が笑顔になれるような挨拶をしなければと思います。昨年度の学校便りの中に、次のような文章を載せました。

「立ち止まって挨拶」は、大きな成長の鍵です！

「立ち止まって挨拶」は、初めは単なる「形」にすぎません。しかし、挨拶する相手にいち早く気づき（アンテナ）、そちらへ向けて足を止め（自分は後回し）、自ら声を出して（積極的）、頭を下げる（感謝）ことで、周りに気を配る力、様々なことに感謝する気持ち、自分から始める積極性が育っていきます。

自然にできるようになると「立ち止まって挨拶」は「誠実」でなければできないことに気づきます。わがままな人は「立ち止まって挨拶」ができません。他者を受け入れ大切にしようという素直さが、実は自分を育ててくれるのです。

哲学者の内田樹氏が「学力」のことを「学ぶ（ことができる）力」だと言い、「学ぶ力」とは、「私は学びたいのです。先生、どうか教えてください」という言葉に集約されると言っています。「自己の無知への自覚（積極性）」「師を求め続ける意欲（アンテナ）」「師を教える気にさせる素直さ（自分は後回し）」が「学ぶ力」には必要であり、「立ち止まって挨拶」は「学ぶ力」を育ててくれるのです。

立ち止まって挨拶が自然にできるということは、「誠実であること」、そして「相手意識」や「感謝」の表れでもあるということだと思います。御陵中学校には、そんな素敵な挨拶をしてくれる人がたくさんいます。

また、「100%好かれる1%の習慣」という本の中には、こんな文章が載っていました。

Aさんの務める会社で、大幅な組織改編が行われました。Aさんが所属する部署は「部署自体が解散」ということに。しかし、Aさんには、救いの手が差し伸べられます。他部門のB部長から「退職すると君も困るだろうから、うちの部署にこないか？」と。もちろん、Aさんは承諾しますが、「B部長とは仕事も一緒にしたことないし、話したことすらない。なのに、なぜ自分を救ってくれるのか？」と疑問を持ちました。すると、B部長はこう言ったそうです。「それは、君が大きな声で『良い挨拶』をしていたからだ。君とは仕事を一緒にしたことはないからどれほど活躍できるか正直わからない。けれど、君の挨拶の仕方を見ていると仕事ができそうな気がした。だから、辞めさせるのは惜しいと思ったんだ。」

Aさんは、社内の廊下で人とすれ違うときも、エレベーターに乗るときも、社内の人にも社外の人にも常に率先して挨拶をしていました。Aさんの気持ちのよい挨拶がB部長の心に強く残っていたのでしょ。Aさんは、社内でも有名な「挨拶の達人」だったのです。ときに挨拶は、ビジネスパーソンにとって、実務能力以上に重要になります。

入社試験の面接等で、「挨拶がきちんとできない人は採用しない」という会社もあります。いつも笑顔で元気な挨拶をしてくれる人は、人から好感をもたれますし、人を笑顔にすることができます。挨拶は、人と人との大きなコミュニケーションであるとも言いますが、時には人生を大きく左右するものでもあるということです。最初は、意識的に行っていた挨拶も、心を込めて毎日毎日行っていれば、その人の心の底から自然と出てくる挨拶になるのだと思います。そしてそれは、その人自身の「魅力」の一つともなります。「自律貢献」へ向けて、「気持ちのよい挨拶ができる」ことはとても大切です。そんな素敵な挨拶が溢れる学校を、これからも目指します。

